

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		運動遊びと療育支援 こどもプラス稲毛教室				公表日	2026年3月27日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6人		運動する部屋で十分に発散することができるように、人数の調整をしたり、整理整頓を心掛け環境を整えている。	利用者のからだの成長により、ダイナミックな動きが増えてきたときに、衝突などを防いだり十分からだを動かすスペースの確保を工夫する。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6人		集団で動いていく中で、より細やかな支援が必要な場合があるので、丁寧に対応できるようにしている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6人		日頃より整理整頓を先生、子ども達で意識できるようにしている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6人		年齢や個々により、それぞれ過ごしやすい環境が異なる場合があるので、総合的に考え工夫している。また、清潔を保てるようにチェックリすとなどがある。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6人		クールダウンしたり、集中して課題に取り組みたいときなどに使えるようにしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6人		毎月進めていく業務は同じなので、ある程度ルーティン化しながらいつでもよりいい方向や方法を常に考えるようにしている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6人		情報を提供したり、共有する中でより細かくその問題に向き合いながら、教室内でできることを話し合い実行している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6人		日々、業務内容の進捗状況について報告しながら進めている。また、その中でいろいろな方法やアイデアを試している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6人	いまのところ外部評価はなし。	必要であれば考えていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6人		こどもプラス本部の研修や千葉市の研修など、受けられるようにしている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6人		ホームページにて、当教室のプログラが掲載されているので、確認できるようになっている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6人		日々の様子、ご家庭、幼稚園や学校などいろいろなコミュニティでの様子を伺い、総合的な姿を見ながら教室でできる必要な支援を行うようにしている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6人		担当者会議を開き、こどもの姿を認識しながら全員で共通理解ができるようにしている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6人		個人のファイルはいつでも見ることができるので、支援にあたる前に読んだり、情報共有を行っている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6人		運動、コミュニケーション、製作など色々な課題の中で、それぞれの目標到達の認識をしながら日々の話し合いで成り立っている。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6人		日々の姿からご利用者ご本人様にとって必要な支援内容になるように、モニタリングから担当者会議を経て計画書を作成している。また、具体的にわかりやすく記載するようにしている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5人		教室の先生全員がチームとなり、いろいろな運動方法などを発信している。また、本部の運動研修などから得た情報をもとに取り組んでいる。		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5人		研修やこどもプラスからの情報などで、基本になる動きは取り入れつつこども達を楽しめるようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6人		集団でのアプローチと個別の対応を常に意識したり、どちらの方がスムーズにいくか色々な状況を経験できるようにし、柔軟に対応している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6人		内容や分担に於いては、療育時間直前まで様々な方向性をもちながら話をしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4人	2人	その日にできない時には、次の日に振りかえりを行っている。	気になったことは、都度話をできる体勢にしながら、終了時に対応できないことは次の利用までに考えて支援できる体勢を整えている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6人		保護者向けの提供記録に於いても、コピーをとり、個別支援記録の記録もとりながら色々角度から次回に繋がるようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6人		モニタリングは、余裕を持ち声をかけさせて頂いている。また、計画書はいつでも見直しができるようにしている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6人		いろいろな場所での本児の姿を幅広い目で見ながら固定化せず、伝えることができるようにしている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6人		必要に応じて連携をとっている。また、先方から連絡を頂くこともある。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6人		保護者の方や相談員さんを介して、対応することがほとんどではあるが、必要に応じて対応している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6人		養護教育センターのほうの書類で、個別支援対応の書式があるので、そちらに記載したり教室の様子を書式化し保護者様を通して対応している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6人		養護教育センターのほうの書類で、個別支援対応の書式があるので、そちらに記載したり教室の様子を書式化し保護者様を通して対応している。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		6人	とくにそのような予定はないが、教室内でこども同士で情報を交換する場面があるので、いろいろなコミュニケーションを聞いたりする機会はある。こども同士の会話を大切にしている。	今後必要に応じて考えるが、外に出るリスクも懸念する。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6人		連絡帳や保護者との何気ないやりとりなどを報告し合いながら、さらに本人の様子を見て、総合的にみていくことができるようにしている。また、いろいろな目線からの意見を取り入れつつ、保護者様に情報を伝え同じ方向性をもてるようにしている。	全員が保護者とのやりとりができていないので、機会を増やしながらひとりひとりの対応力を付けていく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		6人	千葉市の案内や相談事業所からの案内の掲示。	今後も千葉市などから情報があつた場合にお知らせする。	
保護者	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6人		契約時に行っている。また、随時質問や変更があつた場合には対応している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6人		こどもの様子から見られるものや本児が言葉で伝えることなどの情報を整理し、保護者の方のご意向やお考えをすり合わせながらバランスをとっていくよう心掛けている。	

への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6人	モニタリングや受け入れ送り出しの際に、計画書に基づいた支援や日頃の様子など話しながら、確認事項とし同意を得ている。また、いつでも計画書の変更など柔軟に対応できることを、契約時に伝えている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6人	その都度対応したり、解決する方向を見つけたりしている。また、必要に応じて面談などの対応も行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6人	全員が希望していないこともあり、なかなか難しい。	今後、必要に応じて対応していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6人	すぐに対応できること、様子を見たり時間をとっていくものがあるので、見極めつつ丁寧にできるように体制を整えている。また、それが落ち着いたあとでも、確認をしたり、状況が変わったときにまた新たな対応方法をとるなど、迅速に動くようにしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6人	運動内容をわかりやすいように写真ブログにアップし、ポイントになることや意識を向けていることを言葉で説明するようにしている。また、当教室の療育内容においてホームページにて掲載がある。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6人	ブログの際に個人が特定されないように、顔を隠したり、できるだけ持ち物などが写らないように配慮している。また、個人の荷物が混ざることがないように、複数の目で睨り際に確認をしている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6人	できるだけ、こどもからの色々な表現方法を見つけながら、気持ちや意見を引き出せるようにしている。メールや書面なども用いてそれぞれが伝達しやすい方法を取り入れている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6人	なかなか実施が難しいのが、現状ではある。また、ご利用者様の情報などを守る上でも議論が必要。	セキュリティ面や個人理由、また、地域との関係性の構築など課題がある。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6人	契約時に避難訓練の話や引き渡し書などの作成などの対応を保護者の方にご協力頂いている。ブログで避難訓練の様子を載せるようにしている。また、マニュアルの見直しをしている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6人	チェックリストを用いて備品の確認などを行っている。また、いろいろな災害を予測して取り組むようにしている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6人	契約時また、健康面になにかあった場合は、その都度お話を頂き対応している。今のところ、薬の預かりなどはない。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6人	契約時にヒアリングし、必要な対応をとっている。対象となるお子さんに関しては、アレルギーの度合いにもよりますが、持参して頂いている。	指示書を預かる方は現在いない。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6人	書類の整理をしながら、いつでも確認できるようにしている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6人	災害、怪我、発熱などの対応できるように、保護者の連絡先や連絡先の候補をいくつかあげてもらえるなどの書類を用意している。また、取り組みに関しては契約時に説明させていただいている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6人	ヒヤリハットの作成を通して、職員同士で共有しながら、原因や次に向けての回避方法などを話し合い次に繋げている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6人	虐待防止研修の情報を共有しつつ、教室であり得る事例に関して話したり、契約時には身体拘束についての話をさせていただいています。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6人	契約時にお話させていただき同意を得ています。また、計画書に記載のある通り、緊急な場合には抱きかかえたり、手をつなぐなどをして安全の確保に努めています。	